創刊の辞

# 人間科学論集刊行に添えて

人間科学部心理学科長　下斗米　淳

平成22年４月より，人間科学部が開設され，新心理学科が発足を致しました。現心理学研究室の前身は，当時専修大学心理学教室を担われていらっしゃった重松毅先生並びに河内十郎先生が中心になられ，昭和41年（1966年）に創設されました文学部人文学科心理学コースであります。この心理学コースにおきます研究室は，重松先生と河内先生，そして金城辰夫先生と中谷和夫先生の４名の先生方により作られました。その後，平成４年（1992年）に大学院文学研究科心理学専攻修士課程，平成６年（1994年）に博士課程が設置されました。そして平成８年（1996年）には，心理学研究室は人文学科から独立し，学生定員１学年50名の文学部心理学科となり，８名の学科教員に２名の実習助手の10名体制で運営されるに至りました。今でこそ日本では心理学科を有する大学は多くありますが，それらの大学，特に私学において，専修大学心理学科は34年の歴史を有するかなり伝統のある存在であると言えます。しかしその歴史に新たな一頁が加えられ，今年度新学部のもと心理学科が立ち上がることとなりました。

このように，その時代その時代で研究室は，心理学コース，文学部心理学科，そして人間科学部心理学科と看板を少しずつ変えてまいりました。また人間科学部開設に伴い，学生定員は１学年70名となり，学科教員も14名に増え，実習助手２名あわせて16名のスタッフ体制となりました。さらに，各教員の専門分野に特化した実験室・実習室と準備室が開設され，それまでに比して格段に恵まれた教育・研究環境を頂くこととになりました。

しかし，このように姿形は変わりましても，草創期以来，心理学研究室は，実験心理学の基礎領域と臨床心理学の応用領域との間の高度な融合を目指し，また理論と実践を両輪とした総合心理学科を志向するという理念に何らの揺らぎもありません。そしてまた，心理学という学問の固有事情からだけではなく，「学生一人ひとりの顔が見える教育」を大切な教育方針を貫き，徹底した少人数教育を現在も引き継ぎ，各スタッフは大切に守り続けております。

伝統と言うとき，それは，第１期生からの多くの卒業生・修了生，そして在学生に，旧教職員の方々が築かれたものであることを私たち現スタッフは忘れることはありません。現在の在校生が実験や実習のために連日夜遅くまで実験・実習室にこもり精力的に研究活動を展開する一方で，教員が傍らでそれを見守る光景は，草創期と変わらないことと思います。何よりも卒業生・修了生，そして在校生が今も心理学科の財産であると思っております。基礎を築いてくださり，また発展に寄与頂いた方々に対して，紙面を借りて心より深謝を申し上げます。

心理学科は，現在もこの伝統を大切に守りながら，時代的要請に応えていくためにさらなる努力をしてまいりますことをお誓い申し上げます。研究室を代表致しまして，まずは，その努力の一端を，この論集心理学篇にてご報告を申し上げられればと存じます。そして，今後この論集が篇数を重ねる毎に，心理学研究室の成長・発展の姿をご高覧頂ければ，幸甚に存じます。卒業生・修了生，旧教職員の方々，並びに関係各位に対して，今後もお見守りを頂き，ご理解やお力添えを賜りたくここにお願いを申し上げる次第でございます。